

復興支援学生ボランティア委員会

岩手県大船渡市の復興を支援する学生の活動を紹介します。



委員会について

2011年の東日本大震災から3ヶ月後の6月に、有志の学生が岩手県大船渡市で炊き出しをしたことがきっかけで、復興支援学生ボランティア委員会は発足しました。相模原市と大船渡市は銀河連邦という姉妹都市で繋がっており、現在まで交流を続けています。委員会には様々な学部学年が所属しています。

訪問活動は、9月と2月に行っています。その他にも相模大野駅で行われるクラフト市で大船渡の作家さんの小物の販売をお手伝いさせていただいたり、神奈川県のギオンスタジアムや、大船駅で行われるイベントでの物産販売を行ったり、幅広く活動しています。相生祭ではさんまとほたてを焼き、毎年多くのお客様にご好評をいただいているます。

2018年度から大船渡の企業の㈱バンザイ・ファクトリーさんの協力をいただきながら、椿茶を使用したお菓子の商品開発にも取り組んでいます。



夏の訪問

9月に3泊5日で訪問をしました。震災からの復興を支援するために活動しているため、津波の恐ろしさについて新しく入った学生や既に学んだ事のある学生も一緒に勉強しました。

実際に、自分自身の日常生活で、震災に備えて準備できることなどを一緒に改めて考える時間を作りました。

また、大船渡市の市の花「椿」であることももっと市民の方に知ってもらうために、地元の企業の方や地域の方に協力を頂き商品開発に向けて試食会を行いました。

試作会では椿茶プリンや椿茶ミルクティーなど、椿茶を使用したメニューで試作を行い、改善すべき点を理解する貴重な体験ができました。今回の夏の訪問で大船渡が少しでも好きになり復興を通して何かを学び、また自分たちが何ができるか考えることができました。

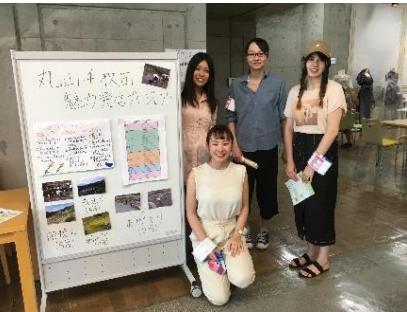


(本文：復興支援学生ボランティア委員会学生より)



活動報告

8月9日（金）に開催された、Kids'サマースクールにおける学生の活動報告を紹介します。



丸山千枚田魅力発信プロジェクト

—この活動に対する目標を教えてください。

キッズサマースクールに参加することで、子どもたちと触れ合うこと、お米の知識を伝えられることが目標でした。また、これから活動自体を明確に組み立てるために、イベントを通してたくさんのことを感じるという目標も持っていました。

—この活動を通して考えたこと、今後に活かしたいことを教えてください。

私たちのプロジェクトは、大人だけでなく全世代の多くの人に知ってもらいたい活動である中、子どもたちをターゲットにできるイベントは今回のキッズサマースクールで初めてでした。展示を行いましたが、次は講座を設け子どもたちに座って話を聞いてもらいたいと思いました。今年限りという思いではなく、来年はもっと良くという思いが湧き上りました。

★各活動については、夢をかなえるセンター English Roomにもパネル展示しています。誰でも閲覧できるので、ぜひ見に来てくださいね！お待ちしています！

Yカフェ & Cカフェ 開催報告

Yカフェ（ユメカナ★カフェ）、Cカフェ（キャリア☆カフェ）では学び・交流・発信など、様々な体験ができます。誰でも参加OKです！詳しくはユメカナまで！



10月11日（金）第1回Yカフェ

『三重県熊野市における地域貢献活動について』-丸山千枚田プロジェクト学生

普段、プロジェクト活動にやりがいを感じていますが、今回新たな試みとして、学生が主体となって主催するYカフェを開催することで、どのような実感が得られるのか体感したい気持ちで挑戦しました。多くの学生に活動を発信したことにより、人前で話すことや表現することに対して自信に繋がり、活動に対する向上心が更に芽生えました。プロジェクト活動の新たな取組みとして『今後も定期的にYカフェでの発信を行っていきたい！』と感じることができました。

10月21日（月）第1回Cカフェ

『海外で夢を見つけよう！～オーストラリア・モナシュ大学で学ぶ～』

-Monash College 櫻木様

～参加学生からの感想～

私はオーストラリアのモナシュ大学に行きたいと思っていたので話を聞いて良かったです。実際にモナシュ大学で働いている方から留学のプログラム内容や学生サポートについて話を聞いてどのような感じなのか想像ができました。また、実際に留学した学生が週末していたことや観光スポット、イベントなどの話が聞けて自分が行くとき何をしようかと考えることができます。様々なことに挑戦したいと思いました。（英語文化コミュニケーション学科・1年）



11月6日（水）第2回Yカフェ

『私のTOEIC勉強法』-英語文化コミュニケーション学科・学生3名

今回、英語の相談会を開きましたが、募集をかける前は正直するのは英文科の学生だけだろうと思っていた。しかし募集をかけてみると英文の学生以外に子供教育や管理栄養の学生からも参加の申込みがあり、他学科の学生と繋がることができること、また彼女たちが自分たちの講座を必要としていることが嬉しかったです。



自分が少しでも得意だと感じたなら積極的に講座を開くべきだと思います。「あ、こういう講座があったらいいな」と思えば自分で開いてみましょう。それを聞きたい学生は少なからずいるはずです。勇気の要る一歩かもしませんが、思っているよりも企画や運営をするのは難しくはありませんし、良い経験になります。勇気を出して一步踏み出すことが大事です。



11月19日（火）～第2回Cカフェ

『国際交流のススメ』-連携教育推進課職員 & 留学経験学生

“国際交流に漠然と興味を持っているあなたへ”というタイトルで開催しました。英語文化コミュニケーション学科や社会マネジメント学科の学生が参加してくれました。参加学生からは、ボランティアや留学、インターンシップなど様々な活動に興味は持っているけれども、活動の探し方や活動に参加するにあたっての準備の仕方がわからない、といった悩みが打ち明けられました。活動の参加方法を調べるだけでなく、なぜこの活動に参加したいのか、参加するにあたってどういったスキルや知識が必要なのかを考えて準備する重要性がカフェ担当者から話され、参加学生たちは今後の方向性を見つけることができたようです。